

PRESS RELEASE

2036年6月15日

報道関係各位

株式会社 Ovenus

日本の Global Gender Gap Index 世界 118 位から 20 位へ。Ovenus がこの 10 年間で変えたもの。

—— からだと人生をつなぐ UI『MeSign』で、女性の不安を意思決定の情報へと変換。女性管理職比率 40%・女性閣僚比率 42.1%という女性の躍進の原動力に。

2036年6月12日(木曜日)

日本のジェンダーギャップ指数、20位に上昇

女性管理職比率40%、女性閣僚比率42.1%に到達 構造変化の10年

世界経済フォーラム (WEF) は 6月11日 (水)、Global Gender Gap Index 2026を発表した。日本は118位から20位へ大きく順位を上げ、主要先進国の中で最も改善幅が大きい国となった。

女性管理職比率は40%に、女性閣僚比率は42.1%に達した。

国内では、女性閣僚が主導した「ライフデザイン支援政策」や、企業によるMeSign導入の広がりが、この10年間の構造変化を支えたと評価されている。

(関連記事 2面、3面)



「ライフデザイン支援政策」について説明する女性閣僚 (11日、首相官邸での会見)

Global Gender Gap Index 2026		
118位 2026年	→	20位 2036年
女性管理職比率 16.3% 2026年	→	40% 2036年
女性閣僚比率 10.5% 2026年	→	42.1% 2036年
男性の育休取得率 40.5% 2026年	→	85% 2036年
合計特殊出生率 1.13 2026年	→	2.03 2036年

女性の不安を、意思決定の情報へ

Ovenusの「MeSign」は、唾液中の生体情報から生殖機能の状態と将来変化を可視化するサービス。「子どもを持つタイミングが分からない」「キャリアを優先しても大丈夫か判断できない」といった不安を、意思決定のための情報に変えた。

多くの女性が、未来の身体状態を理解しながら、妊活、キャリア、パートナーシップ、働き方を設計できるようになり、「いつか考える」から「今、設計する」社会へと変化した。



会見に臨んだ女性閣僚 (11日、首相官邸での記者会見)

2036年6月11日、女性閣僚8名は首相官邸で記者会見を行い、「ライフデザイン支援政策」の成果を発表した。会見では、女性管理職比率40%、合計特殊出生率2.03への回復などが報告され、「将来への不安を抱えたまま生きる社会から、未来を見ながら選択できる社会へ転換した」と総括。今後10年については、キャリア・健康・家族の統合最適化の推進を目指す方針を示した。

リード

2036年6月11日、世界経済フォーラム (WEF) は Global Gender Gap Index 最新版を発表し、日本の世界ランクが20位へ上昇したことを報じました。女性管理職比率は40%、女性閣僚比率は42.1%に到達。女性閣僚が主導した「ライフデザイン支援政策」や、省庁・大手企業によるMeSign (ミザイン: Ovenusが提供する卵巣ヘルスチェック) 導入の広がりが、この10年間の構造変化を支えたと評価されています。しかし、専門家が注目したのは、単なる女性比率の上昇ではありませんでした。『子どもを持つタイミン

『自分が分からない』『キャリアを優先しても大丈夫か判断できない』『将来を考えると自体が怖い』——こうした不安を、多くの女性が“ひとりで抱え込む問題”ではなく、“意思決定のための情報”として扱えるようになったことです。MeSign は、唾液中の生体情報から卵巣内の状態を可視化し将来変化を予測する"情報インフラ"から、からだと人生をつなぐ"UI"へと進化を遂げました。

■ 自分の未来を描けない当時の常識

かつて、多くの女性が将来に不安を抱えていました。仕事が軌道に乗り始める一方で、妊活を始めるべきか、卵子凍結を考えるべきか、キャリアを優先しても大丈夫なのか。その答えを誰も持っていませんでした。不安や焦り、周囲の声といった不確実な情報に左右され、納得できる選択を導き出せずにいました。なぜなら、数年先の卵巣の健康状態や妊孕性の変化を予測する手段がなかったからです。この“未来が見えない状態”は、多くの女性に、『まだ大丈夫かもしれない』という希望と、『もう遅いかもしれない』という不安を同時に抱えさせていました。しかし当時、その構造的課題を認識している人はほとんどいませんでした。将来が見えないから意思決定を先送りする——それは社会に埋め込まれていた“無意識の諦め”だったのです。

■ Oventus が提供した価値

私たちは毎朝、天気予報を確認します。晴れであれば洗濯物を干し、雨が降ると分かれば傘を持つ。週末に出かける予定があれば、週間予報を見て準備をします。天気予報は、私たちの行動を制限するものではありません。自分にとっての最適な選択を導くための情報なのです。MeSign も同じです。Oventus が目指したのは、安心して未来を考えられる情報ドリブンな社会。情報がないから意思決定を先送りするという諦めを、知ることによって一歩踏み出せる行動へと変換する『機会』を届けたかったのです。

■ 10 年間で起きた変化

2020 年代の日本では、『変化を読めないから意思決定できない』という不安な状態が、結婚、出産、働き方に大きな影響を与えていました。MeSign の普及によって、多くのユーザーが、生殖機能や健康状態の将来変化を見ながら、妊活、キャリア、パートナーシップを設計するようになりました。その結果、社会全体では以下のような変化が生まれました。

- ・ Global Gender Gap Index 順位：118 位 → 20 位
- ・ 女性管理職比率：16.3% → 40%
- ・ 女性閣僚比率：10.5% → 42.1%
- ・ 男性育休取得率：40.5% → 85%
- ・ 合計特殊出生率：1.13 → 2.03
- ・ MeSign 利用者数：0 人 → 1,000 万人

この10年間で削減されたものが2つ。一つは、将来が見えないことによる意思決定の先送り。もう一つは、将来不安を抱え続ける時間です。一方で創出されたものがあります。未来変化を前提とした人生設計、そして納得して選択できる状態でした。『分からない状態が怖い』という不安が、『未来を見ながら、自分で選べる』という安心へと変化したのです。

■ 次の10年へ

2030年代、ウェアラブルデバイスは「測定する機器」から「人生選択を支える身体情報インフラ」へと進化しました。Ovenusが開発を進めているマウスピース型デバイスは、口腔内から生体分子・ホルモン変化・自律神経活動などの情報を睡眠中に取得します。ユーザーが“測る”ことを意識しなくても、日常生活の中で自然に身体変化を把握できる状態を目指しています。これまで「不調になってから向き合うもの」とされてきた健康管理は、「変化を見ながら日常の選択を調整するもの」へ変化しようとしています。Ovenusは次の10年で、からだのサインを起点に、キャリア、妊娠・出産、パートナーシップ、暮らし方といった人生の選択をつなぎ、将来設計を特別なイベントではなく、日常生活の中で自然に考え、更新できる体験へと深化させていきます。

■ 代表コメント(新倉雄一/代表取締役 CEO)

私たちが作りたかったのは検査ではありません。自分の未来を怖がらずに、パートナーと語り、そして考えられる世界です。人生において重要なのは、“正しい選択”を探すことではなく、“納得して選べること”だと考えています。正解を求めて『いつか考えよう』と先送りしてしまう人生を、『今、自分で決められる』と感じられるようにすること。これがMeSignの提供価値です。この10年で“人生を設計できる”という感覚が定着してきました。「未来をデザインできないまま生きること」が当たり前だった時代は終わろうとしています。

■ 会社概要

社名：株式会社 Ovenus / Ovenus, Inc.

設立：2022年3月24日(本格的なサービス提供は2026年開始)

本社：東京都港区浜松町2丁目2番15号 浜松町ダイヤビル2階

代表者：代表取締役 CEO 新倉雄一 / 共同創業者 辻本貴行・長江敏男

事業内容：MeSign及びOralinkの提供、生殖機能改善サプリメントの開発・販売。マウスピース型デバイスの開発、